

ペットボトル単独収集実証実験について

1. 実証実験について

現在、プラスチック製容器包装とペットボトルを1つの袋で集めた後、中間処理施設でそれらを選別した上で、リサイクルの原料として出荷しています。

ペットボトルの本体のみを別に集めることで、より混入物の少ない資源物となることが期待されるため、ペットボトルの単独収集実験を実施し、実験参加者へアンケート調査を実施しました。

2. 対象地区

エリア、居住形態（戸建てまたはマンション）の異なる4自治会で行いました。

種別	自治会名	地区	対象世帯数	対象ごみ集積所数
一般団体	A	中部	72	10 箇所
	B	南東部	72	10 箇所
マンション団体	C	北東部	115	1 箇所
	D	南西部	130	1 箇所
合計			389 世帯	22 箇所

3. 実験期間

令和4年2月7日（月）から令和4年3月12日（土）まで（全5週）

4. 実施方法について

(1) 実証実験の流れ

対象地区の住民の方には、市が配布した透明ビニール袋を使用して、指定された曜日にペットボトルを出していただきました。（プラスチック製容器包装とは別にペットボトルのみの収集日を設定しました。）

(2) 検証方法

収集時の職員による調査や、実証実験終了後の参加者アンケートにより、分別状況及び参加者の負担感や分別意識の変化を検証・考察しました。

5. 実験結果について

(1) ペットボトルの収集量

No.	自治会	袋数	重量
1	A	93 袋	163kg
2	B	66 袋	126kg
3	C	131 袋	227kg
4	D	150 袋	284kg
合計		440 袋	800kg



◆ 実験期間における1世帯あたりの排出量は約2kgでした。

◆ 1週間の1世帯あたりの排出量は、約400gでした。（20ペットボトルで約10本）

(2) 収集状況

- ・キャップやラベルの混入や、配布した袋以外を使用した排出が多少見られたものの、概ね適正に排出されていました。
- ・ペットボトル搬入先の中間処理施設によると、通常に収集しているものと比較して、単独で集めたものはキャップやラベルが付いたままのものや異物混入が少なく、資源物としての品質が向上していました。

6. アンケートについて

(1) 調査概要

回答期間	: 令和4年3月13日（日）～3月21日（月）	※実証実験終了後
回答方法	: インターネット及び紙での回答	
配布数	: 389 世帯	
有効回答数	: 182 世帯	
回答率	: 46.8%	

(2) 結果 ※詳細は、資料2-2「ペットボトル単独収集実証実験 アンケート結果について」をご覧ください。

①実証実験

- ・約8割の方が、ペットボトルの資源価値や、リサイクルによって再商品化されることを実験前から知っていました。
- ・実験への参加を負担に感じなかった方が約7割を占めました。
- ・一方で、「負担に感じた」「どちらとも言えない」に回答した方は、「他のプラスチック類と別の袋で出すこと」「ラベルを外すこと」「他のプラスチック類と異なる日に出すこと」を特に負担に感じていました。

②主な自由意見

- ・ペットボトルを収集袋に入れずにごみ集積所に出せる仕組みが良いと思う。
- ・ペットボトルのみを分別させる必要性を、詳しく説明してほしい。

7. 今後の予定

今回の実証実験の結果を踏まえてペットボトル単独収集の課題を整理し、プラスチック資源（ペットボトル・プラスチック容器包装・製品プラスチック）について、排出される方の負担が少ない効果的・効率的な収集方法について検討を進めます。